

出水期を迎えるにあたっての連絡事項

①水害リスクラインによる水位情報の提供
（木津川上流河川事務所）

②「新たな土砂・洪水氾濫解析手法」による施設配置計画で事業再評価承認
（紀伊山系砂防事務所）

③水源林造成事業による森林の整備・保全
（森林整備センター）

④記録的短時間大雨情報の改善 等
（気象庁 津地方気象台）

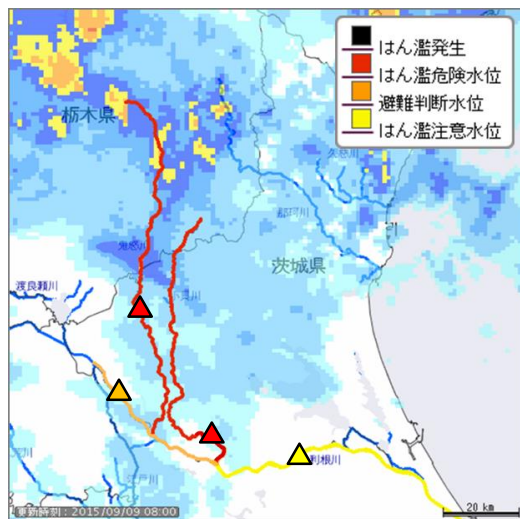
水害リスクラインによる水位情報の提供

木津川上流河川事務所

上流から下流まで連続的に、地先毎の洪水危険度を把握・表示する「水害リスクライン」により、災害の切迫感をわかりやすく伝える取組を推進

現行の洪水予報・危険度の表示

水位観測所の水位で代表して、一連区間の危険度を表示



水害リスクライン(自治体向け)

URL: <https://frlg.river.go.jp>



スマートフォン等からアクセスする場合はこちら

情報提供は水害リスクラインに書き換えます

水害リスクラインを活用した洪水予報・危険度の表示

左右岸別、上下流連続的に地先ごとの危険度を表示



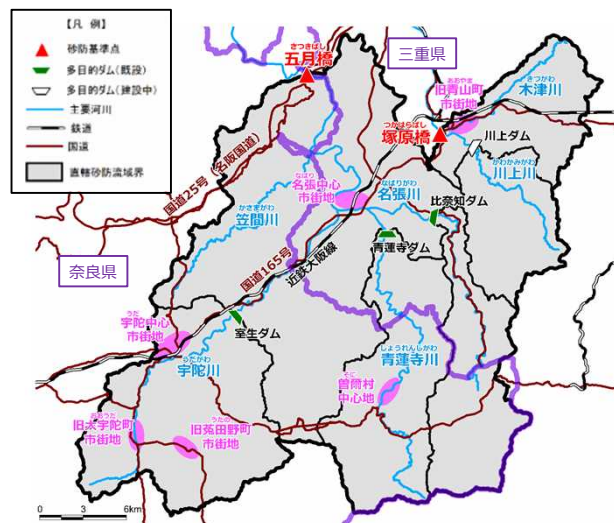
「新たな土砂・洪水氾濫解析手法」による 施設配置計画で事業再評価承認

紀伊山系砂防事務所

河川砂防技術基準の改定に基づく「新たな土砂・洪水氾濫解析手法」による施設配置計画で事業再評価承認(全国初)

木津川流域の概要

流域面積:699.3km²



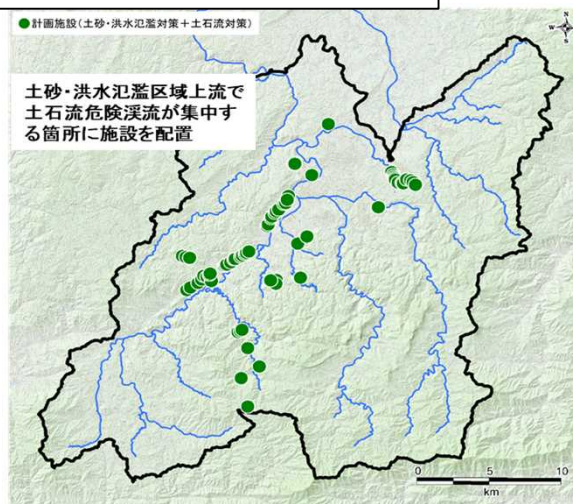
従来の土石流危険渓流が集中する箇所への砂防施設整備から、土砂・洪水氾濫の抑制効果が高い遊砂地などを効率的に整備することで、広範囲の被害軽減を図ることが可能になりました。

新しい手法による効率的・効果的な施設配置が可能となったことで、旧計画よりも総施設数を減らしながら、総便益を増加させることができました。

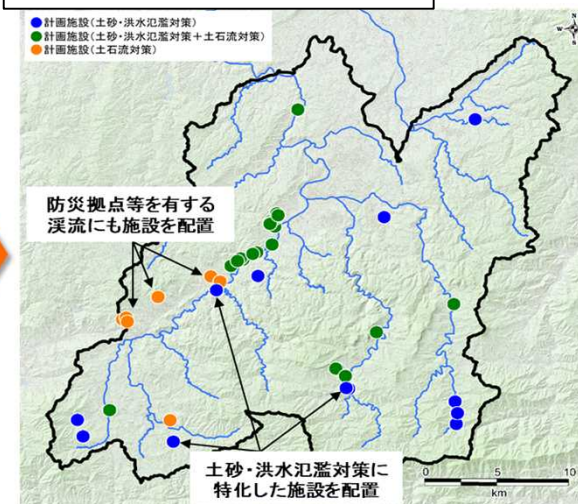
平成31年3月に改訂された河川砂防技術基準(計画編)により、土砂・洪水氾濫に影響する施設配置の評価手法が確立されました。また奈良県・三重県で土砂災害防止法に基づいた土砂災害警戒区域等の指定が完了したことも受けて木津川水系直轄砂防事業では施設配置の計画を見直しました。新しい評価手法による事業再評価(R3.1)としては全国で初めての承認となります。

効率的な施設配置計画への変更

前回(平成27年度)の施設配置計画



今回(令和2年度)の施設配置計画



費用対効果の分析結果比較

項 目	便益(B)(百万円)					費用(C) (百万円)	費用 便益比 (B/C)
	砂防事業による被害軽減便益			残存価値	総便益	事業費 (総費用)	
	土砂・洪水氾濫	土石流					
令和2年 分析結果	88,746	3,017	85,729	185	88,931	11,178	8.0
平成27年 分析結果	54,718	21,645	33,074	206	54,924	9,143	6.0

※便益・費用については、それぞれの基準年で現在価値化した値である。また、整数値としており、合計値は表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

水源林造成事業による 森林の整備・保全

森林整備センター

流域における対策

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター

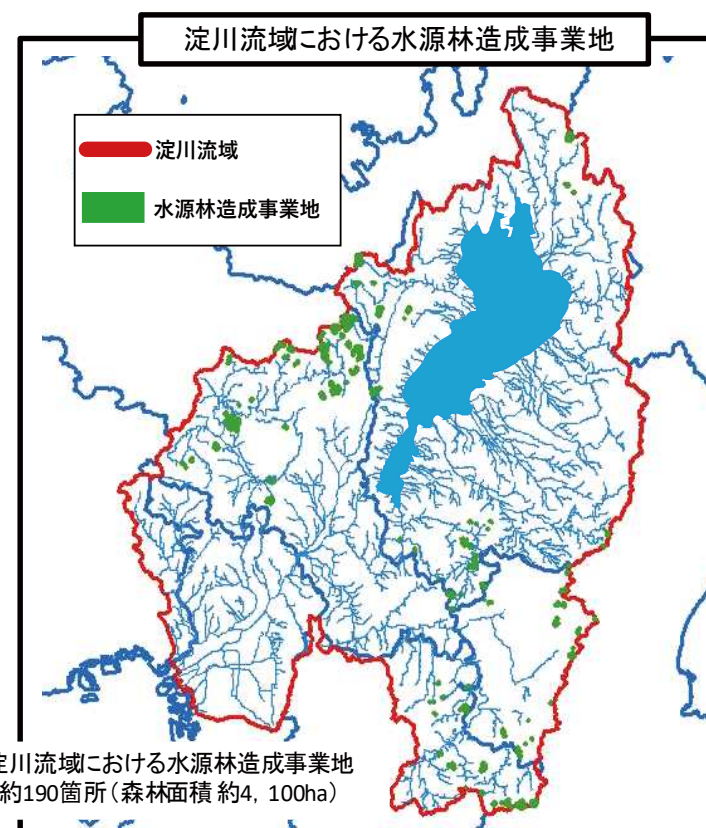
■ 水源林造成事業による森林の整備・保全（造林者会議等 事業実施に向けた打合せを開始）

- ・各府県において、水源林造成事業の実施主体となる造林者（各地域の森林組合や林業事業体等）との打合せを開始。
- ・森林整備センターの「流域治水」の取組を説明するとともに、今年度森林整備を予定している約390haの事業地について、施業時期等具体的な事業の打合せを行いました。



京都市で開催された造林者会議の様子
(令和3年4月13、20日開催)

- ・水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によって適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。



各機関からの情報提供

津地方気象台

記録的短時間大雨情報の改善

記録的短時間大雨情報の改善

【令和3年6月3日実施予定】

- 記録的短時間大雨情報は、大雨警報発表中に、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを伝えることで、どこで災害発生の危険度が高まっているかを「危険度分布」で確認し、自主的な安全確保の判断を促すもの。
- 記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表することで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように改善。

これまで

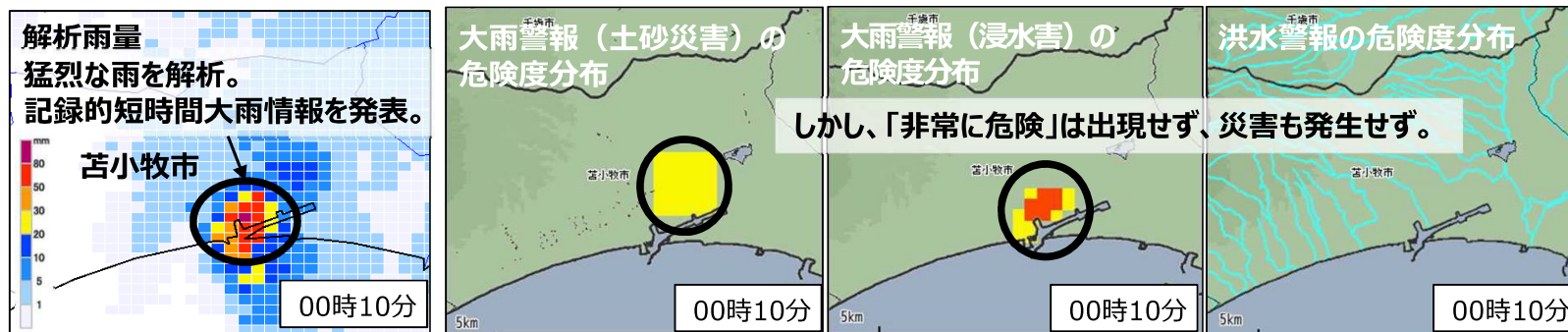
大雨警報を発表中に、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときに発表。

災害発生と結びつきが強い情報に改善

改善後

危険度分布で「非常に危険」（警戒レベル4相当）以上が出現し、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときにのみ発表する。

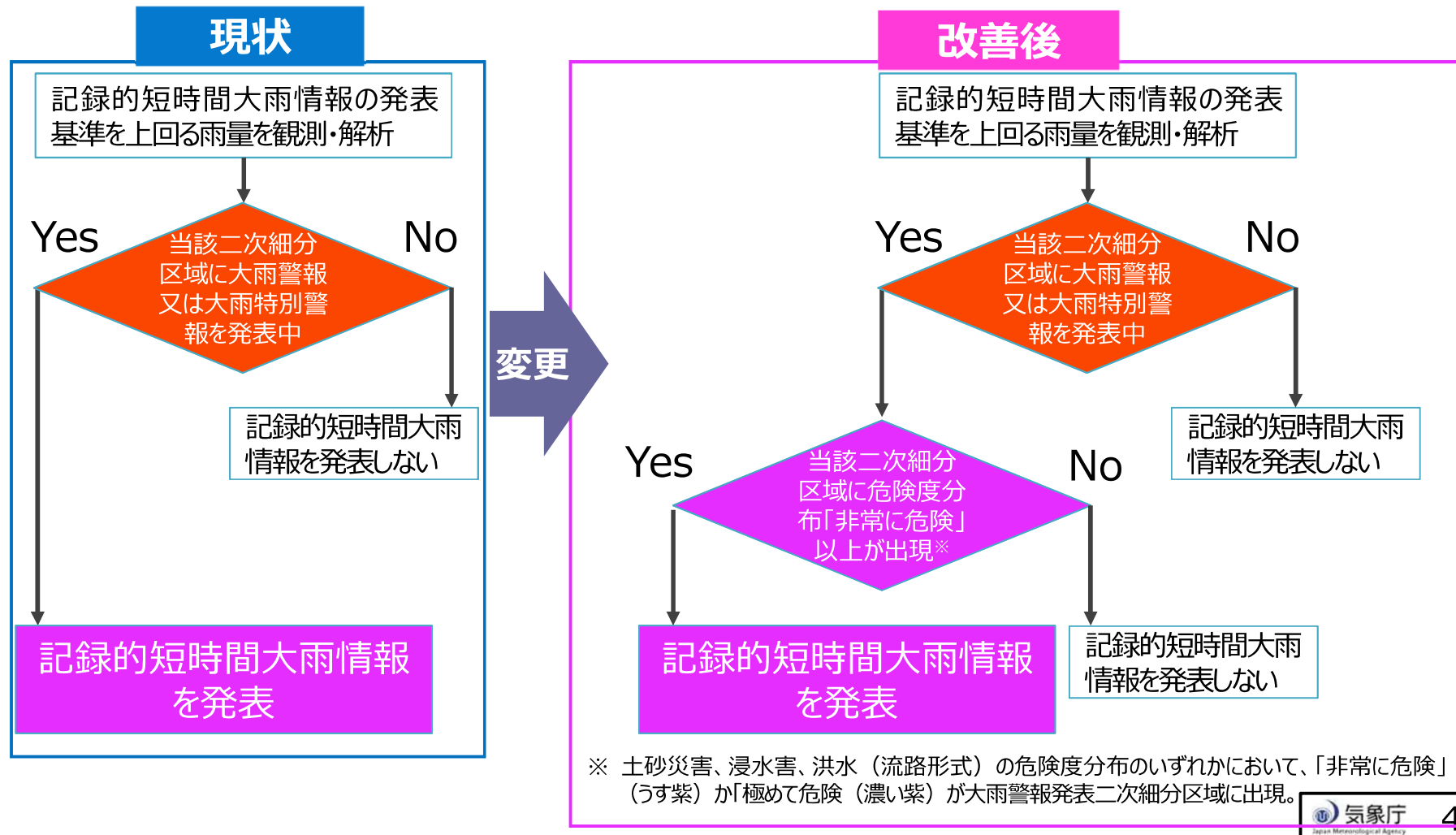
令和元年11月12日の胆振地方の例



「危険度分布」の危険度を発表条件に加えることで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることが伝わるように改善。

記録的短時間大雨情報の発表条件の変更

- 大雨警報が発表され、土砂災害・浸水害・洪水のいずれかの危険度分布で「非常に危険」（うす紫）以上が出現している二次細分区域について記録的短時間大雨情報を発表するよう変更。



警戒レベルと対応した 高潮警報等に改善

警戒レベルと対応した高潮警報等に改善

【令和3年6月3日実施予定】

- 自治体や住民が高潮警報のみで避難が必要とされる警戒レベル4に相当しているかを判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」は高潮警報として発表するよう改善。

- 高潮災害からの避難は、潮位が上昇する前に暴風で避難できなくなるため、高潮警報のみでは判断できず、暴風警報も考慮した判断が必要とされている。
- 高潮警報のみで、避難勧告（警戒レベル4）を発令する目安に到達しているかどうか判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える注意報」は高潮警報として発表する。

平成30年台風第21号の例

大阪市		今後の推移 (■ 警戒級 ■ 注意報級)									
発表中の 警報・注意報等の種別		4日							5日		
		3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3	
大雨	1時間最大雨量 (ミリ)	0	0	40	70	70	40				
	(浸水害)										
	(土砂災害)										
暴風	風向風速 (矢印・メートル)	陸上	12	14	20	35	35	18	15	12	12
		海上	15	18	25	40	40	23	20	15	15
波浪	波高 (メートル)	1.5	2	3	4	4	2.5	2.5	1.5	1.5	
高潮	潮位 (メートル)	0.4	0.4	0.8	2.8	2.8	2.2	1.5			

高潮警報のみで避難勧告を発令する目安に到達しているか判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」は、高潮警報（警戒レベル4相当）として発表する。

改善

大阪市		今後の推移 (■ 警戒級 ■ 注意報級)									
発表中の 警報・注意報等の種別		4日							5日		
		3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3	
大雨	1時間最大雨量 (ミリ)	0	0	40	70	70	40				
	(浸水害)										
	(土砂災害)										
暴風	風向風速 (矢印・メートル)	陸上	12	14	20	35	35	18	15	12	12
		海上	15	18	25	40	40	23	20	15	15
波浪	波高 (メートル)	1.5	2	3	4	4	2.5	2.5	1.5	1.5	
高潮	潮位 (メートル)	0.4	0.4	0.8	2.8	2.8	2.2	1.5			

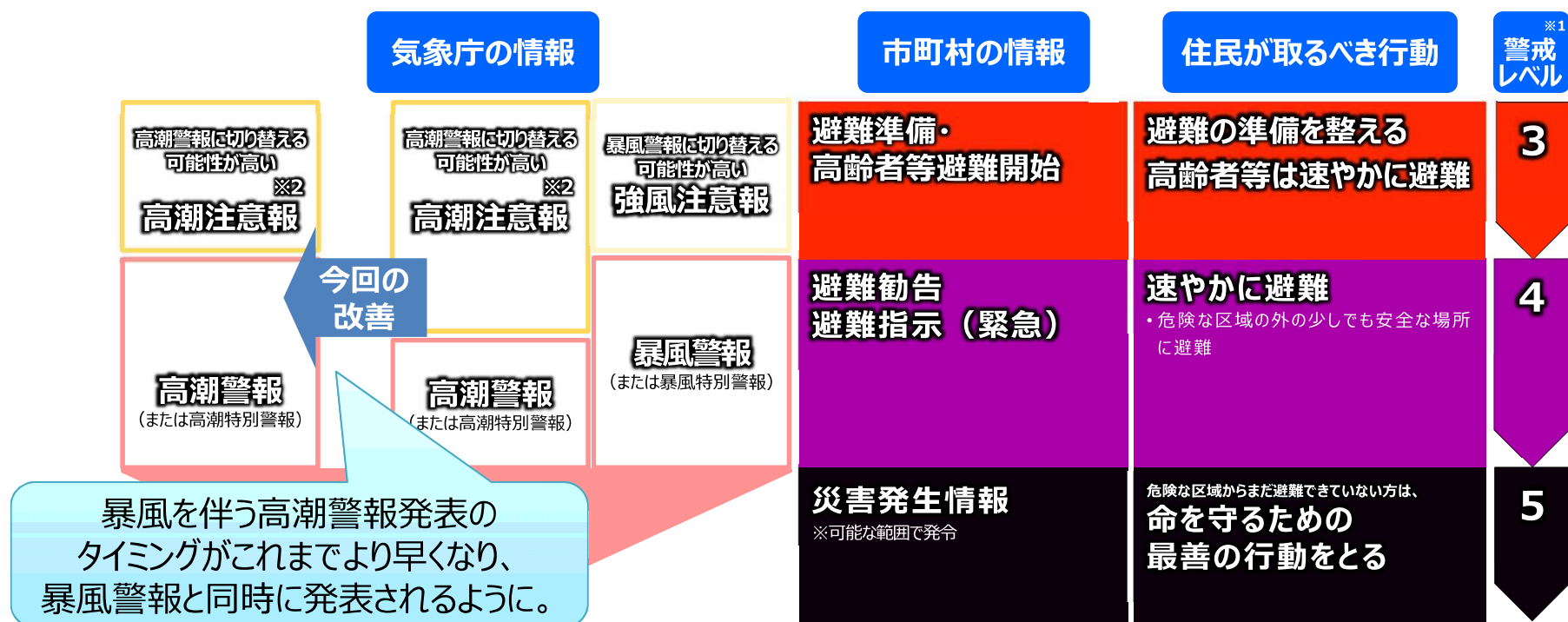
高潮からの避難が必要な状況であることがより明確に伝わるようになり、より安全なタイミングで住民が避難することが可能に。

高潮警報がこれまでより早いタイミングで発表されるようになります

【令和3年6月3日実施予定】

- 暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える注意報」が高潮警報として発表されることにより、これまでより早いタイミングで高潮警報が発表されるようになります。

- ✓ 警報のリードタイム（猶予時間）は、防災関係機関や住民に伝わり安全確保行動がとられるまでにかかる時間を考慮して設けている。
- ✓ これまで高潮警報は、重大な災害が発生するような警報級の高潮が概ね3～6時間先に予想されるときに発表していた。
- ✓ 潮位が上昇する前の暴風も考慮する必要があるため、暴風警報と同時に発表されるようにすることで高潮警報のリードタイムが長くなる。



※1 警戒レベルについては、内閣府ホームページ（http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html）をご覧ください。
 ※2 夜間～翌日早朝までに高潮警報に切り替える可能性が高い注意報は、避難勧告（警戒レベル4）に相当します。

線状降水帯がもたらす降り続く 顕著な大雨への注意喚起

線状降水帯に関する情報のコンセプトと情報イメージ

令和3年
出水期

線状降水帯に関する情報のコンセプト

● 背景 ～なぜ始めるのか～

毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。この線状降水帯による大雨が、災害発生危険度の高まりにつながるものとして社会に浸透しつつあり、線状降水帯による大雨が発生している場合は、危機感を高めるためにそれを知らせてほしいという要望があります。

● 位置づけ ～情報のコンセプト～

大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

※ この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で発表します。

※ この情報により、報道機関や気象キャスター等が「線状降水帯」というキーワードを用いた解説がしやすくなることが考えられます。既存の気象情報も含めて状況を的確にお伝えすることにより、多くの方々に大雨災害に対する危機感をしっかり持っていただくことを期待します。

線状降水帯に関する情報のイメージ

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生危険度が急激に高まっています。

線状降水帯に関する情報を補足する 図情報のイメージ



○ 大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

※ 「雨雲の動き」（高解像度降水ナウキャスト）の例。

※ 線状降水帯がかかる大河川の下流部では今後危険度が高まる可能性があることにも留意する必要がある旨、ホームページ等に解説を記述する。

顕著な大雨に関する情報の発表基準

令和3年
出水期

- 大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説できるよう、顕著な大雨に関する情報の客観的な基準を設定。

※ なお、線状降水帯については専門家の間でも様々な定義が使われている。

顕著な大雨に関する情報の発表基準

1. 【雨量】解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
 2. 【雨量】1.の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
 3. 【雨量】1.の領域内の最大値が150mm以上
 4. 【危険度】大雨警報（土砂災害）の危険度分布において土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水警報の危険度分布において警報基準を大きく超過した基準を実況で超過
- （内閣府SIPと連携して発表基準を検討）

※ 上記1～4すべての条件を満たした場合に発表する。

※ 再度基準を超過したときに情報発表を抑止する期間は3時間とする。

※ 運用開始後も、利用者からの意見も踏まえつつ、必要に応じて発表条件の見直し、精度検証を実施するとともに、情報の意味の周知徹底・利活用促進を図りながら、継続的に情報改善に努める。

（参考）予報用語における線状降水帯の定義

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともしう雨域。

顕著な大雨に関する情報が対象とする「線状降水帯」とは

令和3年
出水期

- 大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説できるよう、顕著な大雨に関する情報の客観的な基準を設定。

※ なお、線状降水帯については専門家の間でも様々な定義が使われている。

気象レーダー等の情報から客観的に判断して、発表条件※1を満たす場合には顕著な大雨に関する情報を発表する。

持続性がある危険な線状降水帯であるかどうかの絞り込みは、予測技術の向上も含め、今後の課題とする。

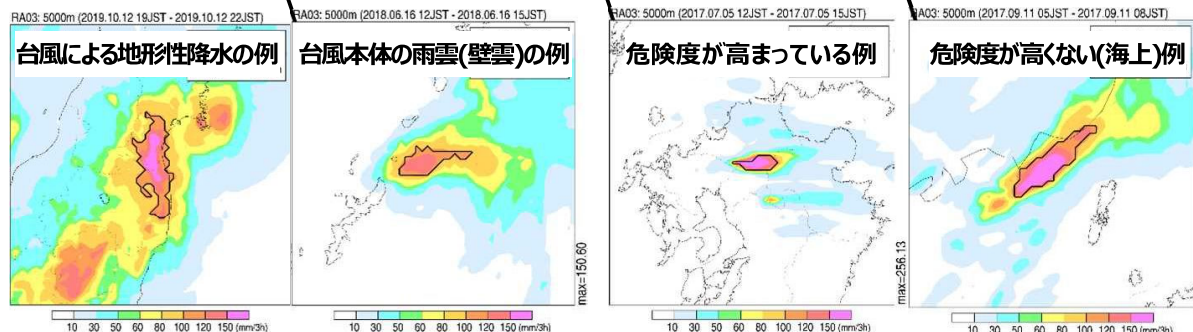
**「線状降水帯」という
キーワードを用いる。
大雨による災害発生危険度が
急激に高まっている中で、
線状の降水帯により非常に
激しい雨が同じ場所で
降り続けている状況。※1**

線状降水帯※2

※1

1. 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
2. 1.の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
3. 1.の領域内の最大値が150mm以上
4. 大雨警報（土砂災害）の危険度分布において土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水警報の危険度分布において警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

※2 次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとまなう雨域。



「線状降水帯」による大雨の危機感をお伝えします



「線状降水帯」は積乱雲がほぼ同じ場所で数時間停滞することにより大雨となるもので災害の危険度が急激に高まります

この情報が発表されたら市町村の避難情報やキキクル（危険度分布）等を確認し適切な避難行動をとってください



次のような内容で情報が発表されます

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

Q & A

質問 1) この情報が発表されていなければ災害は発生しないの？

⇒そうではありません。この情報が発表されていなくても甚大な災害が発生するケースもあります。大雨による災害リスクが認められている場所にいらっしゃる方は、市町村から発令されている避難情報を確認し、適切な避難行動をとってください。キキクル（危険度分布）、河川の水位情報等も確認し、自ら避難の判断をしていただくことが重要です。

質問 2) この情報が発表されるまで待てばいいの？

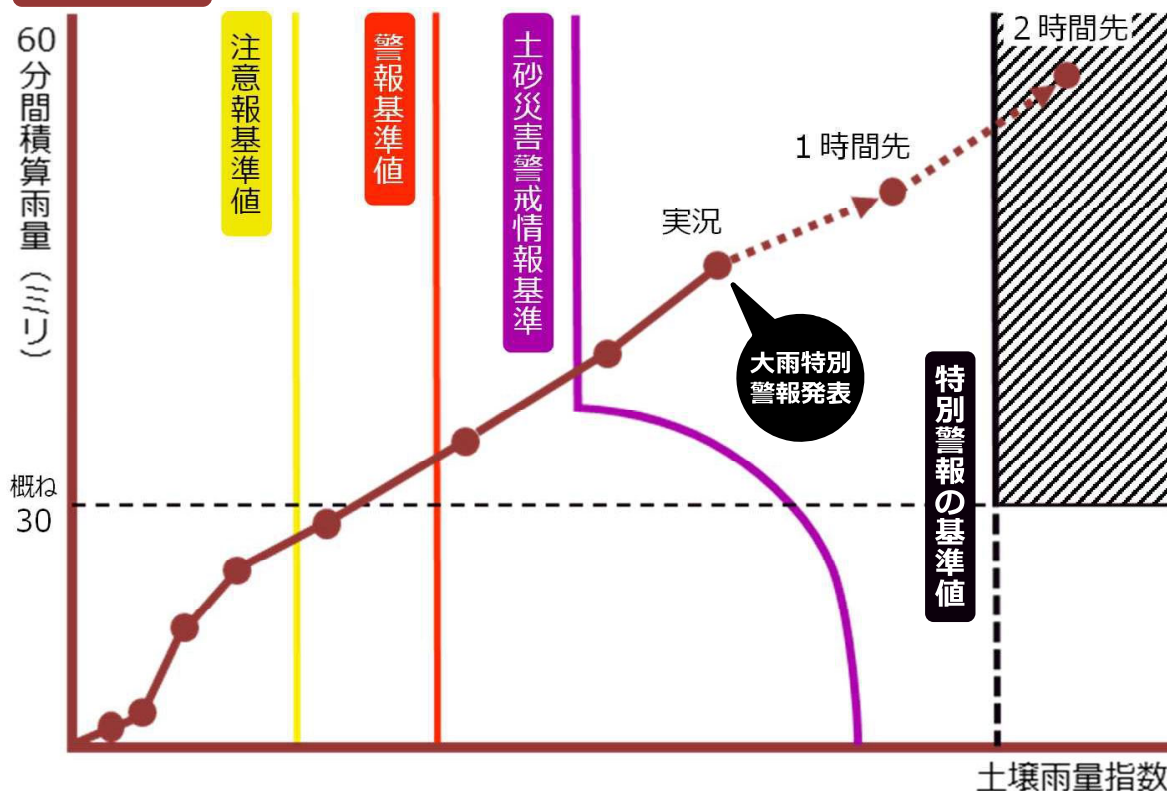
⇒この情報を待ってはいけません。大雨による災害リスクが認められている場所にいらっしゃる方は、市町村から発令されている避難情報を確認し、適切な避難行動をとってください。キキクル（危険度分布）、河川の水位情報等も確認し、自ら避難の判断をしていただくことが重要です。

大雨特別警報（土砂災害）の改善

新たな発表指標（土砂災害）における基準値の設定

多大な災害が発生した時間帯の指数の値を新たな発表指標における基準値とする。

イメージ図



基準値の設定に用いる災害

土砂災害警戒情報

→集中的に発生する急傾斜地崩壊
及び土石流

大雨特別警報（土砂災害）

→多大な被害をもたらす土砂災害
（大規模または同時多発的な土石流）

※ 特別警報の基準値は、警報・注意報の基準値と同様、定期的に見直しを検討することとする。

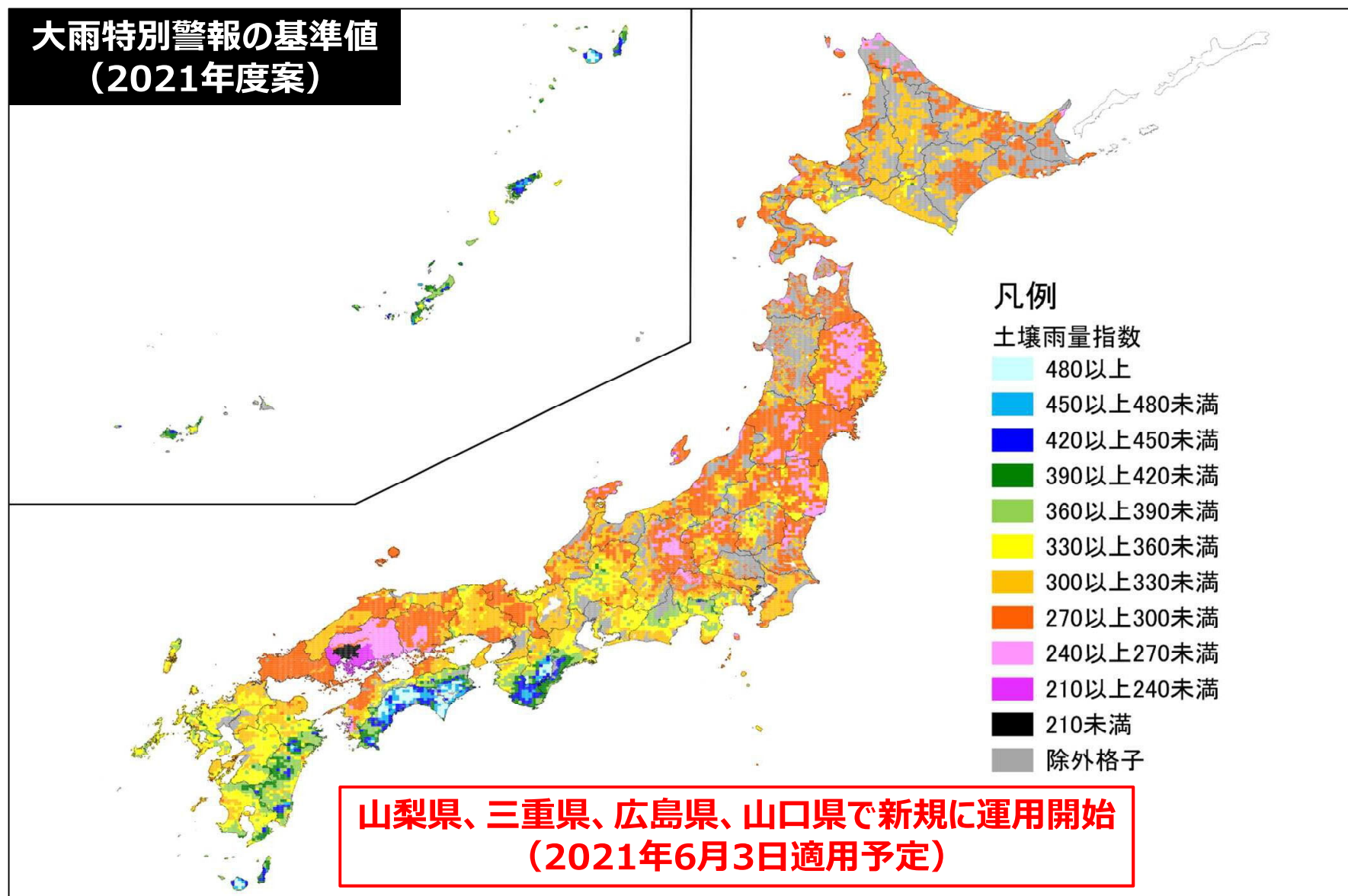
局所的な土砂災害を引き起こす溪流の広さを念頭に、危険度分布のもととなる指数の解析精度等も考慮して概ね10格子とする。

※ 1km格子が10個未満の島も発表対象となり得る（周囲の降雨状況等から総合的に判断）

多大な被害をもたらした現象に相当する基準値を設定し、この基準値以上となる1 km格子が概ね10格子以上まとまって出現すると予想され、かつ、土砂災害発生に関係するような激しい雨※がさらに降り続くと予想される場合、大雨特別警報を発表。

※ 10分間に概ね5ミリ以上（1時間に概ね30ミリ以上）の雨に相当。

大雨特別警報（土砂災害）の指標に用いる基準値



※ 山梨県、三重県、京都府、広島県、山口県以外の地域については、土壌雨量指数の実況値補正（1.0852を乗じる）に対応した基準値案。

大雨特別警報の指標改善に関する計画

発表指標		50年に一度の値 < 5 kmメッシュ>			危険度分布の技術（指数） < 1 kmメッシュ>		
		48時間降水量	3時間降水量	土壌雨量指数	最大危険度（濃い紫）		新たな指標に用いる基準値
					土砂災害	浸水 又は洪水	土砂災害
土砂災害	長時間指標	50格子	—	50格子	出現	—	—
	短時間指標	—	10格子	10格子	出現	—	—
浸水害	長時間指標	50格子	—	50格子	—	出現	—
	短時間指標	—	10格子	10格子	—	出現	—

平成29年
7月7日～

↓

令和2年
7月30日～

↓

令和3年
6月3日～
(予定)

土砂災害	長時間指標	50格子	—	50格子	出現	—	—
	新たな指標	—	—	—	—	—	10格子
浸水害	長時間指標	50格子	—	50格子	—	出現	—
	短時間指標	—	10格子	10格子	—	出現	—

土砂災害	新たな指標	—	—	—	—	—	10格子
浸水害	長時間指標	50格子	—	50格子	—	出現	—
	短時間指標	—	10格子	10格子	—	出現	—

※ 東京都伊豆諸島北部では令和元年10月11日より土砂災害の新たな指標を先行的に導入
 ※ 1kmメッシュ土壌雨量指数への移行が完了していない一部地域では、土砂災害の新たな指標を用いず短時間指標を引き続き運用

大雨特別警報（土砂災害）における長時間指標と短時間指標の統一

➤ 令和3年6月から、1 kmメッシュの土壌雨量指数を用いた発表指標（令和2年7月に全国的運用を開始）のみにより、大雨特別警報（土砂災害）を運用。

○長時間指標または短時間指標※1 によって捕捉される大雨特別警報（土砂災害）の対象災害※2

検証期間：平成18年～令和2年

事例	発生日	発生地域
平成23年7月新潟・福島豪雨	7月29～30日	福島県、新潟県
平成23年台風第12号	9月3～4日	三重県、奈良県、和歌山県
平成24年7月九州北部豪雨	7月12日	熊本県
	7月14日	福岡県、大分県
平成25年7月大気不安定	7月28日	山口県、島根県
平成27年9月関東・東北豪雨	9月10日	栃木県
平成29年7月九州北部豪雨	7月5日	福岡県、大分県
平成30年7月豪雨	7月6～7日	広島県
令和元年台風第19号（東日本台風）	10月12～13日	岩手県、宮城県
令和2年7月豪雨	7月4日	熊本県

※1 3時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km格子が、ともに10格子以上まとまって出現している地域の中で、土砂災害の危険度分布で最大危険度が出現している市町村等に大雨特別警報（土砂災害）を発表。（令和3年4月26日時点でも一部の県で運用中）

※2 大規模または同時多発的な土石流

これらの対象災害については、1 kmメッシュの土壌雨量指数を用いた発表指標で漏れなく捕捉されることを確認



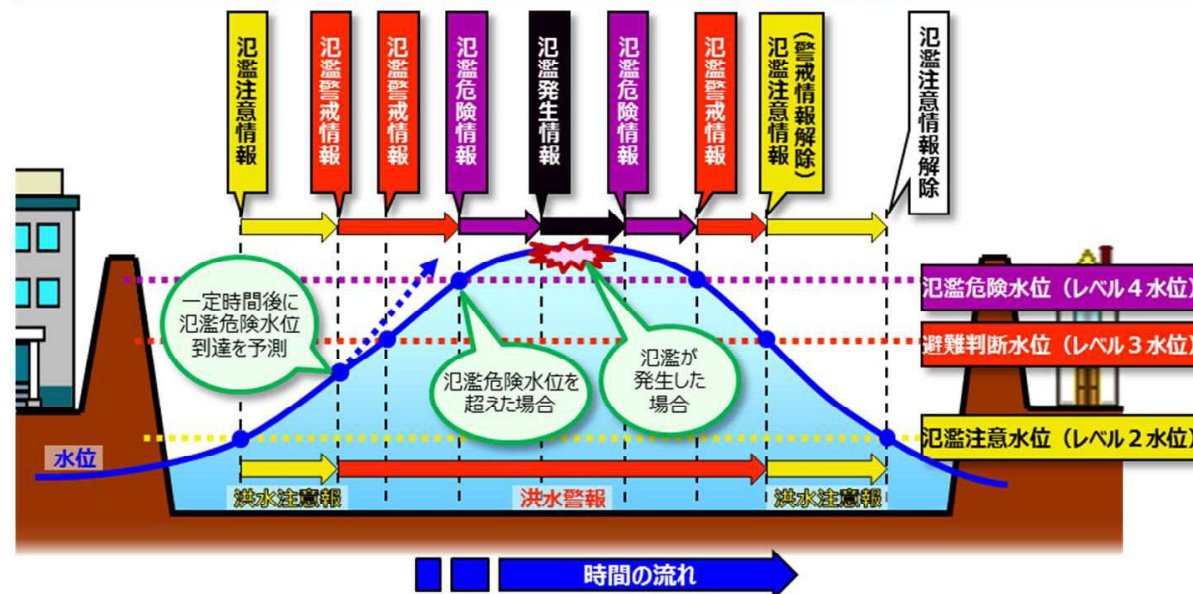
1 kmメッシュの土壌雨量指数を用いた発表指標のみにより
大雨特別警報（土砂災害）を運用することが可能

指定河川洪水予報の改善

指定河川洪水予報とは

河川の増水や氾濫などに対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考となるよう、国または国と都道府県が共同で、あらかじめ指定した河川について、区間を決めて水位または流量を示して行う洪水の予報。

洪水予報の標題（種類）	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
〇〇川氾濫発生情報 （洪水警報）	氾濫の発生 （氾濫水の予報※）	氾濫水への警戒を求める段階 【警戒レベル5相当】
〇〇川氾濫危険情報 （洪水警報）	氾濫危険水位（レベル4水位）に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階 【警戒レベル4相当】
〇〇川氾濫警戒情報 （洪水警報）	一定時間後に氾濫危険水位（レベル4水位）に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位（レベル3水位）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 【警戒レベル3相当】
〇〇川氾濫注意情報 （洪水注意報）	氾濫注意水位（レベル2水位）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階 【警戒レベル2相当】



国管理河川における指定河川洪水予報の予測時間延長

変更箇所 – PDF形式 –

発表者 国土交通省 関東地方整備局 気象庁 気象庁予報部	→	第1受報者 機関名	→	第2受報者 機関名	→	第3受報者 機関名
------------------------------------	---	--------------	---	--------------	---	--------------

演習

とねがわじょうりゅうぶ 利根川上流部氾濫注意情報

利根川上流部洪水予報第X号
洪水注意報
令和X年07月21日13時40分

かんとうちゆうりゅうぶ きしやうちゆうりゅうぶ
関東地方整備局 気象庁予報部 共同発表

(見出し)

【警戒レベル2相当情報〔洪水〕】とねがわじょうりゅうぶ 利根川上流部では、当分の間、氾濫注意水位を超える水位が続く見込み

(主 文)

【警戒レベル2相当】とねがわじょうりゅうぶ 利根川の八斗島水位観測所（伊勢崎市）では、当分の間、「氾濫注意水位」を超える水位が続く見込みです。引き続き、洪水に関する情報に注意して下さい。

(雨量)

現在、雨は小降りになりました。

流域	20日14時00分～21日13時20分 までの流域平均雨量	21日13時20分～21日16時20分 までの流域平均雨量の見込み
利根川上流域	8ミリ	0ミリ

(水位)

利根川上流部の水位観測所における水位は次の通りと見込まれます。

観測所名	水位危険度		レベル1 レベル2 レベル3 レベル4			
	水位(m) 又は 流量(m3/s)		水防団 待機	氾濫 注意	避難 判断	氾濫 危険
八斗島 水位観測所 (伊勢崎市)	21日13時20分の状況	1.92 -				
	21日14時20分の予測	2.40 -				
	21日15時20分の予測	2.86 -				
	21日16時20分の予測	3.22 -				
栗橋 水位観測所 (久喜市)	21日13時20分の状況	4.00 -				
	21日14時20分の予測	4.50 -				
	21日15時20分の予測	5.00 -				
	21日16時20分の予測	5.50 -				

水位のグラフは各水位間を按分したものです。
水位危険度レベル4については、氾濫危険水位と計画高水位を按分しており、氾濫危険水位＝計画高水位の場合は最大になります。

(注意事項)

(参考資料)

- 国管理河川の（水位）の欄が6時間先までに拡張されます。
- （都道府県管理河川は変更なし）

観測所名	水位危険度			レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	水位(m) 又は 流量(m3/s)		水防団 待機	氾濫 注意	避難 判断	氾濫 危険	
八斗島 水位観測所 (伊勢崎市)	21日 13時 20分の状況	1.92 -					
	21日 14時 20分の予測	2.40 -					
	21日 15時 20分の予測	2.86 -					
	21日 16時 20分の予測	3.22 -					
	21日 17時 20分の予測	3.40 -					
	21日 18時 20分の予測	3.26 -					
栗橋 水位観測所 (久喜市)	21日 19時 20分の予測	3.22 -					
	21日 13時 20分の状況	4.00 -					
	21日 14時 20分の予測	4.50 -					
	21日 15時 20分の予測	5.00 -					
	21日 16時 20分の予測	5.50 -					
	21日 17時 20分の予測	5.50 -					
	21日 18時 20分の予測	5.00 -					
	21日 19時 20分の予測	5.50 -					

指定河川洪水予報の予測時間延長の効果

指定河川洪水予報においては、一定時間後に

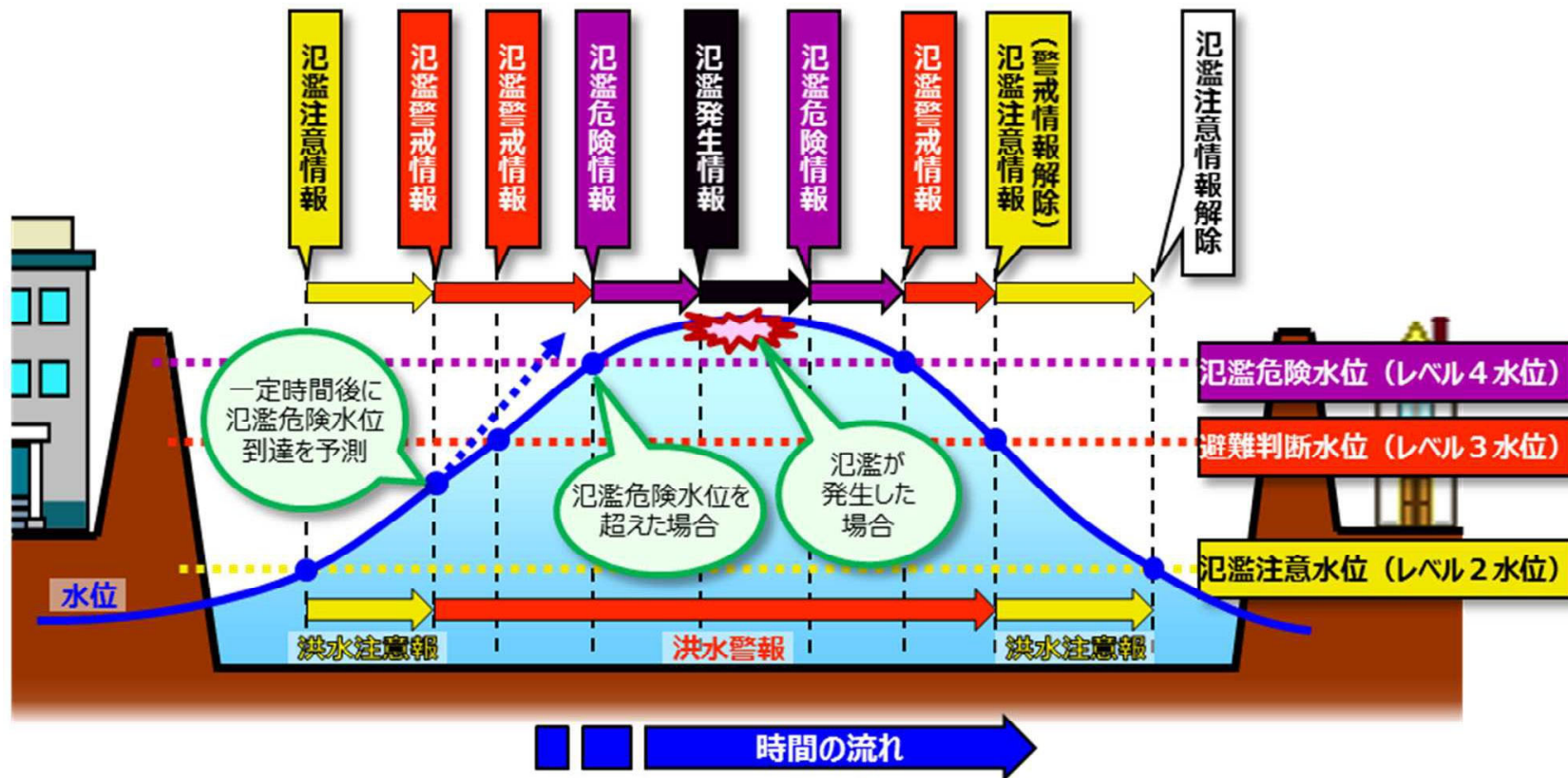
「氾濫危険水位に到達が見込まれる場合」

「避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合」
に、氾濫警戒情報（警戒レベル3相当；高齢者等避難）を発表します。

洪水予報の標頭（種類）	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
〇〇川氾濫発生情報 （洪水警報）	氾濫の発生 （氾濫水の予報※）	氾濫水への警戒を求める段階 【警戒レベル5相当】
〇〇川氾濫危険情報 （洪水警報）	氾濫危険水位（レベル4水位）に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階 【警戒レベル4相当】
 〇〇川氾濫警戒情報 （洪水警報）	一定時間後に氾濫危険水位（レベル4水位）に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位（レベル3水位）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 【警戒レベル3相当】
〇〇川氾濫注意情報 （洪水注意報）	氾濫注意水位（レベル2水位）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階 【警戒レベル2相当】

指定河川洪水予報の予測時間延長の効果

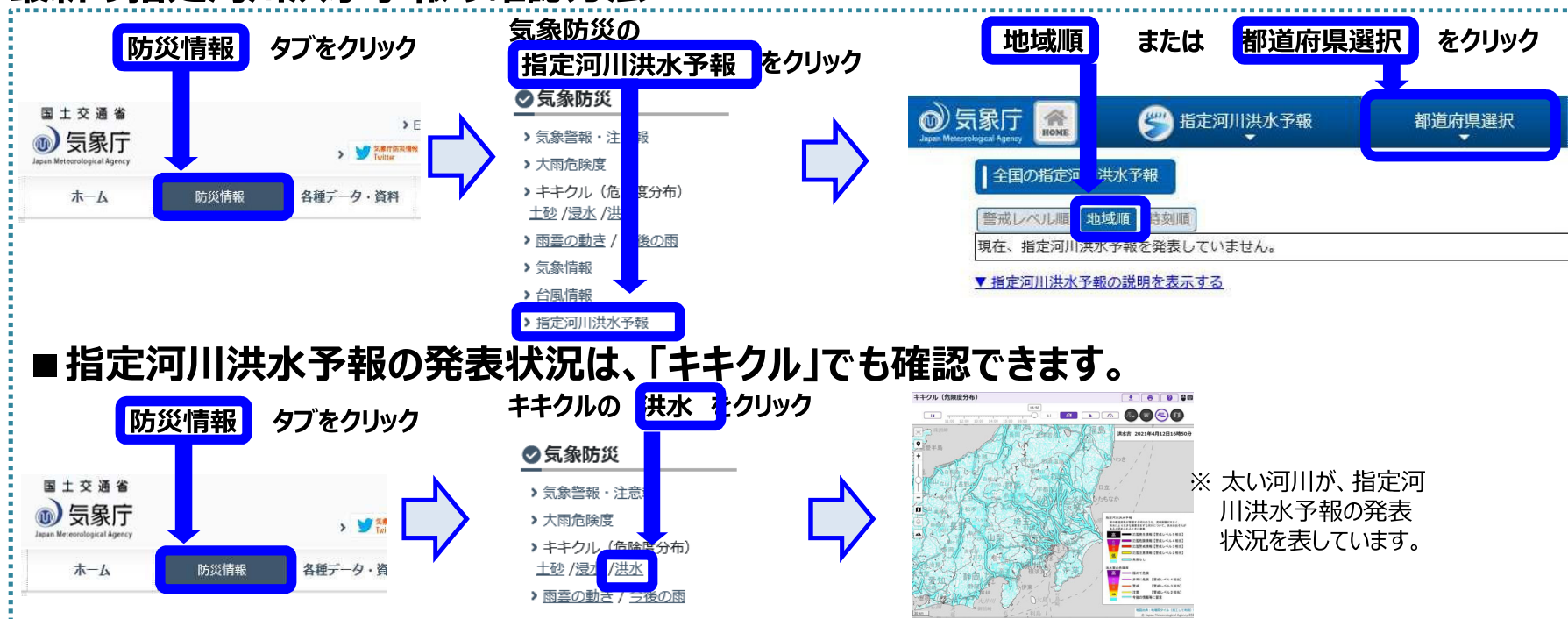
予測時間の延長により、より長いリードタイムをもって
これまでより早い段階から警戒を呼びかけることが可能になります。



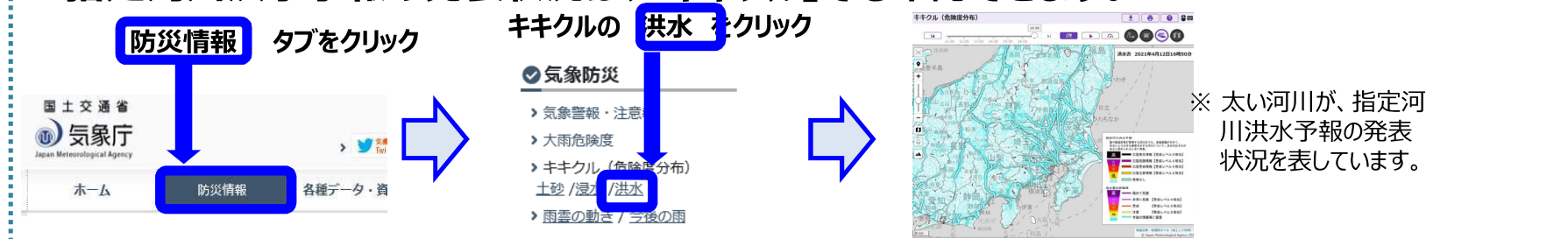
予測時間が長いほど不確実性が高く、予測値は時間とともに
変わりうるため、最新の情報をご確認ください。

気象庁ホームページにおける確認方法 2021.4.1版

最新の指定河川洪水予報の確認方法



■ 指定河川洪水予報の発表状況は、「キキクル」でも確認できます。



大雨特別警報切替時に発表する「河川氾濫に関する情報」(臨時の洪水予報)の確認方法

